

| | | | | | | | |
|---------------|--|--------------|---|--------|-----|-------------|---|
| 科目名 (科目番号) | 臨床薬理学 (075171) | 教員名 幸田幸直 | 学科等 | 看護 | 必修 | 履修年次 | 1 |
| | | | 曜日・時限等 | 時間割表参照 | 単位数 | 2 | |
| | | | オフィスアワー | | 在室時 | 第一キャンパス・研究棟 | |
| 授業概要 | 薬物および薬物治療について基礎的な知識を習得する。①薬物は生体にどのように作用するのか、②投与された医薬品は体内でどのように変化するのか、③医薬品の取り扱いにはどのような注意が必要かなどについて、医療の現場で使われている医薬品を中心に学ぶ。 | | | | | | |
| 準備学習 | 毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること | | | | | | |
| 授業計画 | 回 | 授業項目 | 学習内容・到達目標 | | | | |
| | 1 | 薬理学を学ぶにあたって | 到達目標: 薬物とはなにか、薬理学のなりたち、薬物の使用目的などを理解する。 学習内容: 医療における薬物治療の位置づけについて学習する。 | | | | |
| | 2 | 薬力学 | 到達目標: 薬物受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーターなどを理解する。 学習内容: 薬物が作用するしくみについて学習する。 | | | | |
| | 3 | 薬物動態学 1 | 到達目標: 薬物の血中濃度に関わるCmax、tmax、t1/2、AUCなどを理解する。 学習内容: 薬物の体内での動きについて学習する(1)。 | | | | |
| | 4 | 薬物動態学 2 | 到達目標: 薬物の投与経路、薬物の吸収・分布・代謝・排泄などを理解する。 学習内容: 薬物の体内での動きについて学習する(2)。 | | | | |
| | 5 | 薬効影響要因 | 到達目標: 相互作用、発達薬理、遺伝的素因、臓器毒性、催奇形性などを理解する。 学習内容: 薬効に影響する因子、薬物使用の有益性・危険性について学習する。 | | | | |
| | 6 | 抗感染症薬 | 到達目標: 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬などを理解する。 学習内容: 感染症治療と化学療法薬について学習する。 | | | | |
| | 7 | 抗がん薬、免疫治療薬 | 到達目標: 細胞毒性薬、分子標的薬、免疫抑制薬、免疫増強薬などを理解する。 学習内容: がん治療薬および免疫治療薬について学習する。 | | | | |
| | 8 | 抗アレルギー薬、抗炎症薬 | 到達目標: 抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、ステロイド、抗リウマチ薬などを理解する。 学習内容: 抗アレルギー薬と抗炎症薬について学習する。 | | | | |
| | 9 | 末梢神経系作用薬 | 到達目標: 交感神経・副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬などを理解する。 学習内容: 自律神経系作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬について学習する。 | | | | |
| | 10 | 中枢神経系作用薬 1 | 到達目標: 全身麻酔薬、催眠薬、抗精神病薬、抗うつ薬などを理解する。 学習内容: 中枢神経系に作用する薬物について学習する(1)。 | | | | |
| | 11 | 中枢神経系作用薬 2 | 到達目標: 抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬などを理解する。 学習内容: 中枢神経系に作用する薬物について学習する(2)。 | | | | |
| | 12 | 循環器系作用薬 1 | 到達目標: 抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬などを理解する。 学習内容: 心臓・血管系に作用する薬物について学習する(1)。 | | | | |
| | 13 | 循環器系作用薬 2 | 到達目標: 抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症用薬、血液系作用薬などを理解する。 学習内容: 心臓・血管系に作用する薬物について学習する(2)。 | | | | |
| | 14 | 呼吸器用薬、消化器用薬 | 到達目標: 気管支喘息用薬、消化性潰瘍用薬、制吐薬、止痢薬などを理解する。 学習内容: 呼吸器系や消化器系に作用する薬物について学習する。 | | | | |
| | 15 | その他の薬物 | 到達目標: 糖尿病・骨粗鬆症用薬、救急処置薬、消毒薬、血液製剤などを理解する。 学習内容: 物質代謝に作用する薬物、救急処置薬、消毒薬などについて学習する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験(100%) | | | | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 薬理学 | | 吉岡充弘、泉 剛、井関 健、横式尚司、菅原 満 著 | | | 医学書院 | |
| 参考図書 | 臨床薬理学 | | 日本臨床薬理学会 編集 | | | 医学書院 | |
| 教員からのメッセージ | 基本的な重要事項は反復して学習し、知識の応用が効くように、系統的理解に努めてください。プリントを併用するようにしますので、活用してください。 | | | | | | |